

浄土宗西山禅林寺派

# 潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

ナモの寺 検索

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第323号  
平成22年9月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

[choonji@aichi.email.ne.jp](mailto:choonji@aichi.email.ne.jp)

都大路に棄てられし  
 塵芥の堆の中にも  
 げに香たかくこそろたのしき  
 白蓮は生ぜん

(出典)「法句経」五八番



撮影：超空正道

フツフツと  
腐敗臭を放つ

権力闘争に汚職  
塵芥蠢く  
政界の泥

嘘と欺瞞  
悪銭絡む  
財界の泥

欲と怒り  
流血澱む  
人間界の膿

されど  
目を背くなかれ

そして  
忘るるなかれ

泥中にこそ咲く  
白蓮華あることを

## 泥中白蓮華

山本薩夫（一九一〇—一九八三）とい

う映画監督をご存じでしょう。骨太な社会派作品を数多く世に出しておられ、『白い巨塔』『華麗なる一族』『金環蝕』『不毛地帯』『あゝ野麦峠』といった作品名を列挙すれば、お分かりいただける方も多いのではないかと思います。その監督が、今年生誕百年ということ、NHKのBS放送で先に挙げた四作品を連続で放映しましたので、見させてもらいました。

政界、財界、あるいは医療の世界、私どもの所属している宗教界におきましても、その内部は、欲と欲とがぶつかり合う、おぞましき血みどろな権力闘争が繰り広げられ、その裏で、金と女が複雑に絡み合っているのが現実なのかもしれませぬ。タイトルにありました「金環蝕」というのは、日食の一種で、周囲は金色に光り輝いているが、中心部は真つ暗な状態のことをいい、人間世界には、華やかな部分と闇の部分があることを象徴的に表現したものでありましよう。

一連の作品の中には、悪い奴がいっぱい出てきます。そして、一方で、悪い奴らに抹殺されてしまったたり、その世界から自ら身を引いてしまふ、可哀相な人も出てきます。見終わった後には、どう

しても、虚しさや脱力感が残ります。しかし、だからといって、厭世的になったり、人間嫌いになつたのではつまりませぬ。

釈尊の生の声に近いといわれる『法句経』の五八番に、

都大路に棄てられし

塵芥の堆の中にも

げに香たかくころたのしき

白蓮は生ぜん

とあります。

多くの人が行き交う大通りの脇にある泥沼には、食べ残したものを棄てたり、さまざまな不用物が投げ込まれ、その汚泥は悪臭を放ち、触れることすら躊躇われるものであるが、白蓮は、気高く芳香を漂わせ、すつくと咲き誇っている、というのがです。

蓮華は、仏教とひじょうに縁の深い植物です。姿形が清楚で美し

ということの外に、理由は、二つあります。一つは、「不染」ということ、蓮の葉に落ちた水は、玉となってコロコロ転がります。つまり、泥の中にあっても、自身は水をはじめ、煩惱という泥水に汚されない、染まらないということとです。

もう一つは、泥中にこそ咲くということとです。皆が忌み嫌うところの醜、濁、臭、悪、つまり、煩惱をその滋養分として花開くということとです。

徳川時代のことです。浅間山噴火、天明の大飢饉、役人の賄賂の横行などにより政治が乱れ（今の時代に何となく似ている）、緊縮財政、風紀取締りによる寛政の改革が行われました。その頃の狂歌に、「白河の清きに魚のすみかねてもとの濁りの田沼恋しき」と

いうのがあります。「白河」というのは、白河藩主であった老中松平定信、「田沼」というのは前任の田沼意次のことと、「水清ければ魚棲まず」を下敷きにして、言いで得て妙であります。

仏教におきましては、清と濁善と悪、悟りと煩惱というものを別々のものと考えてはいけないうと教えています。水は清くなければならぬといひながら、濁りである滋養分がなければ、蓮も魚も生育できません。悟りも同じで、煩惱なくして悟りは生まれません。「煩惱即菩提」、煩惱は本来活力の源で、親鸞聖人は、「煩惱の水溶け、すなわち菩提の水となる。（中略）水多きに、水多し。障り多きに、徳多し」といっています。

私たちは、美味しいものをいただくとき、目と鼻と口で存分に楽

しみ、称賛を惜しみませんが、それが排泄され、糞尿として出てきたならば顔を背けます。だからといって、汚い糞尿を出すのを止めたら、死んでしまいます。糞尿は出すべきもので、しかも、良い糞尿を出すためには、バランスの良い食品を選んで、嫌々食べるのではなく、喜んで食べねばなりません。健康のバロメーターは「快食快便」であるといひます。食事と排泄は、けて別個のものではないのです。

同様に、美と醜、苦と楽、善と悪、悟りと煩惱、さらには、自と他、生と死をも「不二」なもの、一体をなしているものと感じ取ることができれば、人生観は大きく変わるものであります。「嫌なものこそ我が滋養」と決め、心にゆとりをもってゆきたいものです。

◎講堂こうどう

学校や教会などで、講義や集会を行うための広間が「講堂」と呼ばれることはいうまでもない。

この語は中国では仏教以前からよく用いられていたというが、仏教が伝わってからは必ず境内の一定の場所に講堂が設けられ、やがて日本に伝わってからは、ほとんど仏教特有のものになっていく。

ところで、講堂は釈迦の時代にもあった。しかし当時の建物は、柱に屋根がついただけの吹きさらしのもの。それがサンターガラ（集会所）と呼ばれるものであった。真理を説くためには、雨をしのぐ屋根があるだけで充分だったのだろう。

ところが仏教が日本に伝わってからは、講堂は経典を講じたり、法を説いたりする大切な場所とされ、大

きくなる一方となる。ちなみに日本で最古の講堂は九九〇年ごろに造られたとされている法隆寺のもの。最大のものとしては教王護国寺、延暦寺の講堂があげられる。

また禅宗では、講堂といわず、「法堂」と呼ばれる。

ちなみに「講」という語は、仏教では仏典を講義する集まり、あるいは法会のことを指す。

つまりは、大勢の人々が集まって何かをするわけで、やがて「成田講」「葺土講」「伊勢講」……と講義が存在しなくても、信仰の目的を同じにする人間の集団を意味することはへと変わっていくのだ。

（『仏教のことは』早わかり事典）

## 雑記

## ▼集団感染？



世の中には、不可解なことは結構あるもので、このところ立て続けに冷蔵庫・瞬間湯沸かし器・シャワー・ガスレンジ・エアコンなどが壊れてしまいました。ウィルスに感染したわけでもなし、不思議です。出費もさることながら、その対応には、ほとほと参りました。

## ▼秋彼岸施餓鬼会

◎期日 9月23日（木）

◎時間 1時30分～2時30分

今年はずいぶん残暑がきつく、秋の訪れが遅いようです。しかし、秋は間違いなくやってきます。

恒例の秋彼岸施餓鬼会を、秋分の日に厳修致します。ご先祖様を偲び、どうぞ、皆さまお揃いで、お参り下さいませ。

## ◆夕空にただ無事を告げ

秋彼岸 沐魚